

# 平成 25 年度第 1 回 JaLC 運営委員会議事要旨

## 開催要旨

- 日 時 : 平成 25 年度 5 月 8 日 (水) 10:00~12:00
- 場 所 : 独立行政法人科学技術振興機構 東京本部 3 階会議室
- 出席者(敬称略) : 国立情報学研究所 武田英明(委員長)  
国立国会図書館 佐藤毅彦(委員)  
独立行政法人物質・材料研究機構 谷藤幹子(委員)  
独立行政法人科学技術振興機構 水野充(委員)  
坂内悟、斎藤隆行、加藤齊史、余頃祐介、青山幸太、國岡崇生(事務局)
- 議 事 概 要 : 1. 平成 24 年度 JaLC 実施報告<報告>  
2. 平成 25 年度 JaLC 実施計画<審議>  
3. 分科会の設置<審議>  
4. CrossRef との契約についての状況報告<報告>  
5. 準会員独自 prefix の発行審査<審議>

## 議事概要

1. 「平成 24 年度 JaLC 実施報告」について事務局より報告があった。
  - ・ JaLC 運用に向けた協力覚書を共同運営機関 4 機関(独立行政法人 物質・材料研究機構、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所、国立国会図書館、独立行政法人科学技術振興機構)で平成 24 年 5 月 28 日に締結した。また、運営委員会及び分科会を開催し、JaLC の運営方針や普及方法等について審議し、運営規則や参加規約を制定した。平成 25 年 5 月から CrossRef DOI 登録を、また平成 25 年 2 月末より J-STAGE 掲載の日本語論文を中心に JaLC DOI 登録をそれぞれ開始した。
  - ・ 今後、平成 24 年度実施報告に会議開催の実績を追記し、JaLC の Web サイトで事務局が公開する。
2. 「平成 25 年度 JaLC 実施計画」について審議を行った。
  - ・ 始動年度の 24 年度における活動を踏まえ、目標を明示した 25 年度計画とするべきであり、全体計画・実施計画、リソース(人員や予算)計画、各分科会の実施計画や拡張部分、JaLC としての受け入れフォーマットを考える等、業務フローを確立して運用を行うべきである。また、会員から利用できるようなインターフェースをどこまで整備するかを業務としての目標にする。
  - ・ JaLC は個別対応ではなく一般化を目指すべき。そのための参加機関と JaLC の役割分担を明確にする。
3. 「分科会の設置」について審議を行った。
  - ・ JaLC の機能拡張について実際の運用を踏まえた開発を行うため、検討項目毎に特化した分科会を設置する。設置する分科会は以下の 3 つとすることとなった。
    - ・ 対象コンテンツの拡大検討分科会
    - ・ システム技術分科会

**4. 「CrossRef との契約についての状況報告」について事務局より報告があった。**

現在、CrossRef と JaLC 事務局では下記 2 つの契約を締結するための調整を進めている。

①PILA Sponsoring Member Agreement (JaLC 会員が JaLC を通じ CrossRef DOI を登録できるようにするため、JaLC が CrossRef 会員になる)

②CROSSREF AFFILIATE AGREEMENT (CrossRef の保有するメタ情報を取得し、CiNii や JDreamIII 等の情報検索サービス実施機関に提供するため、JaLC が CrossRef の Affiliate になる)

①について、これまで CrossRef と J-STAGE で契約していたものを CrossRef と JaLC との契約に変更する。②については、Affiliate の範囲に JaLC 準会員や下位団体も含まれることを明確にするため、契約書の文面を調整中である。

**5. 「準会員独自 prefix の発行審査」について審議を行い、J-STAGE 利用学協会 655 学協会について了承された。**

正会員である JST の準会員となる J-STAGE 利用学協会について、JST と J-STAGE 利用学協会との覚書締結等の手続きが完了した学協会から順次 prefix 発行審査を行っており、今回 655 学協会が承認された。なお、今までに平成 25 年 2 月 26 日第 1 回審査で 258 学協会、平成 25 年 3 月 12 日第 2 回審査で 41 学協会をすでに了承済である。

以 上